

医療福祉機器等参入促進セミナー2026

超高齢化社会の到来により、医療機器や福祉機器の需要が拡大しつつあります。医療機器や福祉機器の開発に向けたノウハウやスタートアップとの連携事例を学ぶとともに、現場ニーズを知ることで、モノづくり企業様などのヘルスケア分野への参入や事業拡大のきっかけとなるセミナーです。

参加無料

日時

2026年11月27日(金)13:00~16:40 (受付開始12:30)

会場

テクノプラザものづくり支援センター本館 4F プラザホール
(岐阜県各務原市テクノプラザ1-1)

対象

医療福祉機器等への参入に関心のある県内中小企業の方

定員

60名(先着順)

プログラム

(1)基調講演

- ・「医療福祉機器を人間中心で開発するときの核心となる考え方と方法論」

国立大学法人千葉大学 教授 下村 義弘 氏

(2)医療現場ニーズ説明会

令和8年度の調査結果と新規開発が期待されるニーズの説明

岐阜県産業経済振興センター 医療福祉コーディネーター 鈴木 雅彦

(3)スタートアップ企業との交流会

①モノづくり企業との連携事例の紹介

- ・「1億度の研究から、きれいな空気へ

—核融合研究発A.F.T.クリーナーと岐阜のものづくり共創—

株式会社Applied FUSION Technology 取締役CTO 本島 徹 氏

- ・「逆転の発想から生まれた、破壊現象を制御する

ナノ多孔ファイバーCraze-tex®」

FiberCraze株式会社 代表取締役社長 長曽我部 竣也 氏

- ・「スタートアップだからできること、できないこと」

株式会社nonat 代表取締役社長 伊藤 敬佑 氏

②交流会

申込

11月24日(火)までに、
二次元コードから
お申し込みください(先着順)



faxの場合は、「参入促進セミナー申込」と記述の上、会社・団体名、氏名、部署、役職、メールアドレス、電話番号を送付ください。

fax 058-379-2215

アクセス



「テクノプラザ口」交差点を東へ



[開会 13:00]

(1)基調講演

「医療福祉機器を人間中心で開発するときに核心となる考え方と方法論」

国立大学法人千葉大学 デザイン・リサーチ・インスティテュート

教授 下村 義弘 氏



機器の使用者は人間です。人間を知りその特性に合わせることが、医療福祉機器の大きな開発目標となります。生活者としての人間の生理特性と、開発の際に必要な考え方や具体的な評価方法をお伝えします。

人間の生理・心理・形態的特性に基づき、使いやすい物や過ごしやすい環境の開発を行っている。テーマは医工学・福祉機器や口腔衛生のほか、照明、家電、自動車、高齢者向けパッケージ、保育機器、遊びとウェルビーイングなど。

千葉大学教授。生理人類士1級。一般社団法人日本人間工学会理事、一般社団法人日本生理人類学会理事

(2)医療福祉現場ニーズ説明会

<令和8年度の調査結果と新規開発が期待されるニーズの説明>

岐阜県産業経済振興センター 医療福祉コーディネーター 鈴木 雅彦

- ①車椅子移動時の巻き込み防止とプライバシーに配慮した採尿バッグの固定器具
- ②感染リスクゼロへ：低床ベッドにおける採尿バッグの床面接触防止器具
- ③移動の妨げにならない既存車椅子への酸素ボンベ簡易着脱装置
- ④ベッド内に収納できる酸素ボンベ固定器
- ⑤落下や水没を防ぐ生体情報送信機の保持器具
- ⑥紙パック飲料ストローの簡易取り出し器具
- ⑦微調整が容易な円背患者の体幹安定ポジショニング用具

(3)スタートアップ企業との交流会

①モノづくり企業との連携事例の紹介

・「1億度の研究から、きれいな空気へ

一核融合研究発A.F.T.クリーナーと岐阜のものづくり共創ー」

株式会社Applied FUSION Technology 取締役CTO 本島 徹 氏



・「逆転の発想から生まれた、破壊現象を制御する

ナノ多孔ファイバーCraze-tex®」

FiberCraze株式会社 代表取締役社長 長曽我部 竣也 氏



・「スタートアップだからできること、できないこと」

株式会社nonat 代表取締役社長 伊藤 敬佑 氏



②交流会

[閉会 16:40]